

先日、「Safety2.0」というコンセプトについてお話を聞く機会がありました。これは、IoT（Internet of Things）を使うことで安全性だけでなく生産性も高めていこうとする考え方です。

これまでの企業の安全への取り組みを振り返ると、大きく2つのステップがあるそうです。1つ目は、危険予知やヒヤリハット、指さし確認といった人の注意力と判断力を磨き、安全を確保してきた取り組みで、これを「Safety0.0」と呼びます。ただし、人がどれほど訓練を積んだとしてもミスはなくなる上、機械は壊れるので、「Safety0.0」による安全確保には自ずと限界がありました。そこで、「人はミスを犯す」「機械は故障する」ことを前提に、機械やシステムなどのモノに対してフェールセーフなどの安全方策を講じることで、安全のレベルを引き上げたことを「Safety1.0」と呼ぶようになりました。しかし「Safety1.0」の考え方では、安全を確保できない領域が顕在化してきました。一つには、人と機械の共存領域、そしてもう一つは人の領域です。後者については、熟練者の減少や非正規雇用の増加などによる現場力の低下などがあげられています。こうした問題に対し、新しく出てきた考え方が「Safety2.0」です。「Safety2.0」とは、人とモノと環境が協調して構築する安全、協調安全のことです。人とモノと環境が協調することで、人と機械それぞれの領域はもちろん、両者の共存領域の安全も高く保つことが可能になるそうです。そして、この「Safety2.0」を実現するために有効な手段として、現在急速な進歩を遂げるIoTが挙げられます。この技術をうまく使えば、人とモノと環境を、情報を介して相互につなぐことで、2つの安全の脆弱領域をもカバーできるようになり、安全性が高められます。また、安全性だけでなく、IoTをうまく使うことで、今までなら点検時やメンテナンス時に機械を止めていた場面でも、止めずに続けたり、止める時間を少なくするようになることで生産性を高めることも可能になります。さらに、これまで見えにくかった安全の効果も、IoTを使うことで可視化されれば、安心、安全に対する投資も可能になるでしょう。社会の新潮流に投資をするのがSRIです。今後も、金融商品の観点から「Safety2.0」のコンセプトに注目していきます。

参考資料：日経BP社 Safety 2.0 プロジェクト 冊子「Safety2.0 コンセプト編」